



**THE ASSOCIATION FOR OVERSEAS TECHNICAL SCHOLARSHIP[AOTS]**

30-1, Senju-azuma 1-chome, Adachi-ku, Tokyo 120-8534, Japan

Tel: 81-3-3888-8214 Fax: 81-3-3888-8242, 8264 E-mail: [information@aots.or.jp](mailto:information@aots.or.jp) URL: <http://www.aots.or.jp>

2011年9月

## 募集要項

インフラ分野の為のプロジェクト&プログラムマネジメント  
研修コース

**The Training Program on Project & Program Management for  
Infrastructure Construction and Plant Engineering  
[PPMI]**



2012年2月6日～2月17日

## 1. コース開設の背景：

(財)海外技術者研修協会(AOTS)は、日本政府経済産業省(旧通商産業省)所管の民間技術協力機関として1959年に設立され、以来わが国の開発途上国に対する技術協力の一環として、約170余の国・地域から約155,000人の技術者や経営管理者を研修生としてわが国に受け入れ、産業人材の育成に協力してきました。帰国した研修生は、それぞれの国の産業発展において重要な役割を果たしています。

AOTSは経済産業省の要請を受け、新興国、特にアジアの発展途上国のインフラストラクチャー開発分野における日本企業のビジネス機会を拡大するために、様々な研修プログラムを開発しています。今回は開発途上国においてインフラ分野(注1)のプロジェクトの造作や入札準備中の、あるいは落札した日本企業を支援するため、プロジェクト&プログラムマネジメント(注2)をテーマとする「インフラ分野の為のプロジェクト&プログラムマネジメント研修コース」を特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の協力を得て企画しました。

開発途上国におけるインフラ分野のプロジェクトには次のような特徴があります。

- かなりの案件が国の開発プログラムの一環を成しており、民間企業のみではなく、政府機関、自治体あるいは公共事業体がプロジェクトに参画するために、ステークホルダー(プロジェクト参画者)構成が複雑になる。
- 大型インフラプロジェクトではプロジェクト開発・実施・運営がPPPやBOTなど通常の請負と異なる形態を採ることが多くなっており、設計・調達・建設とプロジェクトの中流に特化してきたコントラクターには取り組みの転換が求められる。
- PPTやプロジェクトファイナンスなど、あるいは民間融資と公的融資の混合ファイナンスなど、高度のファイナンス組成が必要である。
- たとえばエコスマート都市開発、水システムの構築・運営、高速鉄道網の構築等、異なるインフラ要素を複合化するパッケージ・インフラが増えている。
- 再生可能エネルギー生産システムやスマートグリッドといった技術進歩と同時並行でプロジェクト組成を行う案件も増えている。

このような特徴を持つこれからのインフラプロジェクトを計画し纏めるには、在来型の、所与された計画に基づく請負遂行の品質・納期・予算中心のプロジェクトマネジメントも重要であるが、これに加えて、施主と一体となってプロジェクト構想を案画し、これを付加価値の高いプロジェクトあるいはプロジェクト群に纏めていく、一ランク上のプロジェクトマネジメント、つまりプログラムマネジメント、の知識も必要となります。

また、途上国のインフラプロジェクトには数多くの不確定要素が含まれているため、元請にとってリスク管理が極めて重要な問題となります。様々なリスク要因によって、施主など現地側当事者との関係不全が生じたり、プロジェクトの成果物である建設構造物の品質欠陥、工期遅延、建設コストのオーバーランが発生し、プロジェクトの発注企業や請負企業が損失を被る危険性が引き起こされます。そのようなリスク要因の中には、現地の子会社・関連会社あるいは協力企業がプロジェクトマネジメントを深く理解し、これに基づいて管理を行えば削減できるものも少なくありません。

そこで当研修は、P2M(注3)をベースとしたプロジェクトマネジメント体系の基礎知識と手法を習得させ、プロジェクトを効率的に管理し、プロジェクト成果物の品質保証に貢献できる現地管理者の育成を目指します。

**注1) インフラ分野** ---- インフラ分野には、水、石炭火力発電・石炭ガス化プラント、送配電、原子力、鉄道、リサイクル、宇宙産業、再生可能エネルギー、情報通信、都市開発・工業団地、エコスマートコミュニティー、その他プラント・システム分野が含まれます。

**注2) プロジェクト&プログラムマネジメント** ---- プロジェクトマネジメントとは、社会インフラにおけるエンジニアリングと建設分野だけでなく、生産設備構築、ICTシステム開発、新製品開発、企業におけるマーケティング・キャンペーン等のプロジェクトにおいて、プロジェクトの使命を時間や資源の制約のある状況の中で達成するために、ユニークで新しい価値を創造するための一連の管理プロセスです。プロジェクトは単独で実施することも、プログラムの一環として有機的に結合されたプロジェクト群のひとつとして実施することも可能です。プログラムマネジメントとは、大規模で複合的な問題に取り組むに当たり、包括的な使命の下、活動全体を複数プロジェクトの結合体にとらえ、そこに含まれる各プロジェクトの連携・調整・相互作用を通じて状況変化に対応し、事業の成功や

成長、生き残りといった戦略的目標の達成を図る、プロジェクトマネジメントより一段上の、また、より広範囲のマネジメント手法のことです。

**注 3) P2M<sup>®</sup>** ----- プロジェクト&プログラムマネジメント (P2M) とは、一般財団法人エンジニアリング協会が経済産業省の委託事業として 2001 年に発行した、日本発の「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック」です。現在は、日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) が著作権を有し、普及を担当しています。P2M は日本の民間企業、組織、政府の競争力をイノベーションを通じて強化する手段として開発されました。単独のプロジェクトを品質、予算、納期などの計画通りに遂行して成功させるプロジェクトマネジメントの手法であるだけでなく、共通ミッションの下、より高く広い視点から全体最適を考慮しつつ複数のプロジェクトを有機的に統合するためのプログラムマネジメントの標準知識体系でもあります。

## 2. 対象国：

対象国・地域一覧をご確認ください。

( <http://www.aots.or.jp/jp/use/kokunai/pdf/taishokoku.pdf> )

## 3. 参加者の人数：

40 名

## 4. 参加資格：

以下の資格を有することが必要です。

- (1) インフラ分野のプロジェクトを管理推進する立場にある方（経営者、上級管理者、プロジェクトリーダー）、
- (2) あるいはインフラ分野のプロジェクトにおいて、契約、設計、調達、建設等の各業務に責任を有する管理者、監督者（マネージャー、スーパーバイザー、エンジニア）、
- (3) 申し込み者の会社は、原則として日本企業が落札した、あるいは実施母体であるインフラストラクチャー建設プロジェクト、プラント建設プロジェクトに既に関わっている、あるいは今後関わる予定があることとする。
- (4) 日本企業のインフラストラクチャー建設プロジェクト、プラント建設プロジェクトに関わっていることが明らかであれば 2 次、3 次下請け企業の経営者、管理者も対象とする。
- (5) インフラ整備に関わる公的機関の者も対象とする。
- (6) 年齢は 25 歳以上 60 歳以下の方
- (7) 大学卒またはこれに準ずる職歴を有する方
- (8) 英語による聴講、討論、発表、報告書作成ができる方
- (9) 心身健康な方
- (10) 開発途上国または地域に居住の方
- (11) 学生でない方、軍に籍をおいていない方
- (12) 過去に本事業の研修制度で来日した方は、帰国後半年（183 日）以内に開始されるコースに応募することはできません。

注意：

- (1) 日系企業からのお申し込みの参加者につきましては、職位に関わらず、該当する職務内容に従事している場合には、参加可能です。
- (2) 日本へ家族を同伴することはできません。
- (3) 参加者は AOTS に対してプログラムの追加を要望したり、自身でプログラムを計画したりすることはできません。このコースの終了後速やかに帰国しなくてはなりません。ただし、日本の受入企業がこのコースの終了後、実地研修を計画し、AOTS の承認を受けた場合はこの限りではありません。
- (4) AOTS が発行する身元保証書の使用は、研修査証取得のためだけに限ります。例えば、参加者のビジネスなどの目的に使用することはできません。
- (5) お申込の多いコースについては、受入企業または派遣企業 1 社当たりの参加人数を制限させていただくことがあります。

## 5. 応募方法：

以下の応募書類を2011年11月21日(月)までに、AOTS本部(東京)に到着するよう提出してください。  
国内からと海外からとは、応募書類が若干異なりますので、ご注意下さい。

### (海外からの申込みの場合)

- (1) 研修申込書、研修生個人記録申告書、及び問診書 (AOTS 所定様式)
- (2) 顔写真 (4×3cm) 2枚 (裏面に名前を書いてください)
- (3) 勤務先概要を紹介する資料
- (4) IDカードコピー、パスポートコピー、自動車免許証コピー等 (公的機関により発行されたもので、写真があり、ローマ字で氏名、生年月日が記載されているもの)
- (5) 事前研修レポート
- (6) 海外旅行保険承諾書 (AOTS 所定様式)
- (7) 研修生個人情報取り扱いについて (AOTS 所定様式)  
この書類は、本人が署名の上ご提出下さい。内容に同意いただけない場合、または未提出の場合、コースへの参加が認められません。
- (8) 研修契約に関する申告書 (日系派遣企業用)
- (9) 管理研修の研修効果について (AOTS 所定様式)  
この書類は、質問形式となっております。原則として本人の勤務先の代表者の方がご記入ください。  
(本募集要項の最後にこの様式があります。)

※上記 AOTS 所定様式は AOTS ホームページからダウンロードできます。

【英語】 <http://www.aots.or.jp/jp/use/kokunai/kaigai/moushikomi.html>

### (日本国内企業からの申込みの場合)

AOTS ホームページ内の以下の案内をご参照下さい。

国内からの申込手続き⇒申込の方法 2) 管理研修コース

<http://www.aots.or.jp/jp/use/kokunai/kokunai/moushikomi.html#0102>

※上記 AOTS 所定様式は AOTS ホームページからダウンロードできます。

【日本語】 <http://www.aots.or.jp/jp/documents/kokunai/index.html>

提出された応募書類は、2011年12月22日(木)の審査委員会で審査されます。審査結果は審査委員会終了後、AOTS本部より連絡致します。

注：応募者が締切日時点で定員の過半数に満たない場合、本コースを中止または延期する可能性があります。

## 6. 研修コースの概要：

### ■ 目的

国際的なインフラ建設プロジェクト及びプラント建設プロジェクトにおいて、プロジェクトをマネジメントする立場にある管理者を対象として、P2M をベースとしたプロジェクトマネジメント体系の基礎知識と手法を習得させ、プロジェクトを効率的に管理し、プロジェクト成果物の品質保証に貢献できる現地人材の育成を目指す。

### ■ 期待される効果と研修内容

#### 【第1段階：プロジェクトマネジメント】

プロジェクトを実施する上で共通言語となるプロジェクトマネジメントの用語、適用範囲、手法を学ぶ。

#### 【第2段階：プログラムマネジメント】

戦略を実現するために複数のプロジェクトを組み合わせるプログラムマネジメントの考え方、実践のための基礎知識を学ぶ。

【第3段階：事例紹介】

インフラ分野における事例紹介、実地見学を通じてプロジェクトマネジメント及びプログラムマネジメントの実践について理解を深める。

【第4段階：サマリー】

学んだことの理解を確認し、知識を定着させる。プロジェクト&プログラムマネジメントを実践するための自身の役割を認識する。

当研修コースはP2Mをベースとしたプロジェクトマネジメント体系の基礎知識と手法を習得できるように企画されています。

P2M<sup>®</sup>は一般財団法人 エンジニアリング協会が日本の経済産業省の委託事業として3年間のリサーチを経て2001年に発行した「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック」で2002年以来、日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）が普及を担当しています。もともとP2Mは日本の企業、団体、行政等のイノベーションによる競争力強化を支援するためのツールとなることを期待され開発されたものであり、品質、予算、納期等を守っていかにして1つのプロジェクトを成功させるかということだけではなく、より高い視点から全体最適を考え、複数のプロジェクトを統合するプログラムマネジメントの知識体系であるので、本研修コースは一つのプロジェクトを実施する上での共通言語となるプロジェクトマネジメントの用語、手法等の基礎の確実な習得を中心的な目標としながら、より高次のプログラムマネジメントの概念についても学習することができます。

参加者は本コースに参加することで、P2Mの資格試験であるPMC（Project Management Coordinator）試験国際版レベルの体系的な知識を習得するのに加え、プロジェクトマネジメントの責任者としての自身の役割についてより具体的なイメージを持てるようになります。さらには、P2Mベースでプロジェクトマネジメントを学び、実際の日本の企業の事例に触れることにより、日本政府及び日本企業の戦略と取組について知る機会を得て、参加者は帰国後日本企業とのビジネス等の場面で日本の産業界とのコミュニケーションを円滑にするベースとなる知見を得ることも期待できます。

コースは通常午前3時間、午後3時間の課程からなります。夕食後にグループ討論が行われることもあります。日程表（予定）をご覧ください。

■ 期間

2012年2月6日（月）～2月17日（金） （2週間）

■ 使用言語

講義、企業見学、演習は英語あるいは英語通訳付で行われます。コースで使用する資料と教材は英語で作成されます。

\*参加者は、英語による討論、発表、報告書作成を十分遂行できることが必要です。

■ コース・ディレクター 田中 弘氏

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）顧問、前理事長。フランス SKEMA Business School 大学院客員教授（前教授） P2M 論、グローバルプロジェクトマネジメント論、産業マネジメント論担当。ウクライナ国立アドミラルカマロフ造船大学名誉教授、プロジェクトマネジメント学部顧問、グローバル PM 論、P2M 論担当。セネガル国立プロジェクト・プログラム・ポートフォリオマネジメント（3PM）科学大学院教授 戦略・3PM、グローバル PM 論担当。慶應義塾ビジネススクール“Grand Design by Japan” プログラム協力教授。北陸先端科学技術大学院大学、東北大学、九州大学非常勤講師。JICA 専門家、AOTS プログラムディレクター。

田中氏は、総合エンジニアリング企業 日揮株式会社で42年間勤務された経験を持ち、日本最古のPM協会である旧日本プロジェクトマネジメント・フォーラムの創設から14年間我が国PM協会の運営責任者であり、世界のプロジェクトマネジメント界で活躍されている。1982年にコペンハーゲンで開かれたIPMA世界大会において日本を代表してプロジェクトマネジメントの講演を行ったことを皮切りに、世界24カ国においておよそ100のコンファレンスやセミナーにおいて基調講演、招待講演などを行ってきた。2005年から2007年にはグローバルPMフォーラムの議長を務める。

エクソン・モービル・プロフェッショナルPM賞(1996)、ウクライナの政府貢献瑞光章(2010)、米国PMI協会貢献賞(40万会員中65番目)、インド、ロシア、ウクライナPM協会の終身名誉会員資格、経済産業

大臣賞(2008)など7つの海外表彰、3つの国内表彰を受賞されている。

2006年にフランスのSKEMA Business SchoolよりPhDを取得され、2010年にはウクライナ国立造船大学から名誉教授位、ウクライナ科学アカデミーからAcademician称号を授与される。

## ■ 講師陣

コース・ディレクターと特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ\*)に登録された講師が指導します。

\*PMAJは、プロジェクトマネジメントの知識とスキルを発展・普及するために設立された非営利組織です。  
(<http://www.pmaj.or.jp/>)以下のような業務を主に行っています。

1. 我が国のプログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック(P2M)の発行・維持・改善主体として、P2Mの国内外への普及事業
2. P2Mに基づく資格試験の実施機関であり資格者の認定・登録等の業務
3. PMに関する研究開発および国内外PM関連団体との交流
4. PMに関する普及・研修・セミナー事業
5. PM実践者・関係者の交流・相互研鑽のためのオープンPMコミュニティの提供

## ■ 研修場所と宿泊施設(予定)

AOTS 東京研修センター (TKC) [http://www.aots.or.jp/jp/about/center/traffic\\_tkc.html](http://www.aots.or.jp/jp/about/center/traffic_tkc.html)  
120-8534 東京都足立区千住東1丁目30-1  
電話: 03-3888-8231 (受付) ファックス: 03-3888-0763

## 7. 申込手続きと経費:

日本国内企業から 国内からの申込手続きは、

<http://www.aots.or.jp/jp/use/kokunai/kokunai/moushikomi.html>  
をご参照下さい。

経費につきましては、お手数をおかけしまして申し訳ありませんが、10.のお問い合わせ窓口(業務部 業務グループ)にお問い合わせ願います。

海外から

海外からの申込手続きは、

<http://www.aots.or.jp/jp/use/kokunai/kaigai/moushikomi.html>  
をご参照下さい。

経費につきましては、当コースの[英語版募集要項\(The Program Outline\)](#)をご参照下さい。

## 8. 査証(VISA)の取得について:

### (1) 在留資格

日本で研修するために必要な在留資格は「研修」です。

### (2) 査証の取得

AOTS研修参加者は、AOTSが発行する「GUARANTEE LETTER」等必要な申請書類をもって在外日本国大使館/総領事館(以下「在外公館」とする)にて「研修」査証の申請をし、査証を取得していただきます。ただし、申請書類が本省照会となり時間がかかる場合がありますので時間に余裕をもって申請願います。

### (3) 注意事項

- a) 査証免除措置国・地域人の参加者も在外公館にて「研修」査証の申請をし、査証を取得する必要があります。
- b) 既に「短期滞在査証」、「短期数次査証」等「研修」以外の査証を取得している方も、AOTSが発行する「GUARANTEE LETTER」等必要な申請書類をもって、改めて在外公館にて「研修」査証の申請をし、査証を取得していただく必要があります。  
その際、取得済の査証は失効しますのでご注意下さい。

- c) APEC・ビジネス・トラベルカード (ABTC) をお持ちの方も「AOTS 研修参加」が渡航目的でありますから、在外公館にて「研修」査証の申請をしていただくことが必要となりますのでご注意ください。
- d) 査証についての不明点は、最寄りの在外公館にて事前に確認をしていただきますようお願いします。

## 9. 個人情報の取扱いについて

AOTS が取得する応募者の個人情報については以下のとおり取扱います。

- (1) 個人情報の管理者： 財団法人海外技術者研修協会 総務部長  
連絡先： 総務部総務グループ 電話：03-3888-8211 E-mail: [kojinjoho@aots.or.jp](mailto:kojinjoho@aots.or.jp)
- (2) 利用目的  
ご提供いただいた個人情報は、研修生受入及び研修実施に関する事務手続きのために利用します。それ以外の利用目的又は法令に基づく要請の範囲を超えた利用はいたしません。  
尚、当協会の個人情報保護方針は、<http://www.aots.or.jp/jp/privacypolicy.html> をご覧ください。

## 10. お問い合わせ：

財団法人 海外技術者研修協会  
日本国内企業からのお申込の場合  
業務部 業務グループ  
住所 〒120-8534 東京都足立区千住東 1-30-1  
電話：03-3888-8221 Fax：03-3888-8242

海外からのお申込の場合  
業務部 招聘業務グループ  
住所 〒120-8534 東京都足立区千住東 1-30-1  
電話：03-3888-8214 Fax：03-3888-8242 E-mail: [shouhei@aots.or.jp](mailto:shouhei@aots.or.jp)

### AOTS 海外事務所

バンコク事務所 (AOTS Bangkok Office) 所長 牧野幾太郎  
住所：14<sup>th</sup> Fl. PASO TOWER, 88 Silom Rd., Suriyawong, Bangruak, Bangkok 10500  
電話：66-2-238-5233~4, 268-0784 Fax：66-2-634-1200 E-mail: [aots@loxinfo.co.th](mailto:aots@loxinfo.co.th)

ジャカルタ事務所 (AOTS Jakarta Office) 所長 佐藤 裕之  
住所：6th Floor, Summitmas I, Jl. Jend. Sudirman, Kav. 61-62, Jakarta 12190  
電話：62-21-522-6776, 6777, Fax：62-21-522-6661 E-mail: [aotsjkt@aots.or.jp](mailto:aotsjkt@aots.or.jp)

ニューデリー事務所 (AOTS New Delhi Office) 所長 鈴木保己  
住所：Flat No.1307, 13th Flr., Gopaldas Bhawan, 28 Barakhamba Road, New Delhi 110001  
電話：91-11-2370-4122, 2370-4124~4125 Fax：91-11-2370-4123 E-mail: [contact@aotsindia.com](mailto:contact@aotsindia.com)

## インフラ分野の為のプロジェクト&プログラムマネジメント研修コース (PPMI) 日程 (予定)

2012年2月6日～2月17日

AOTS 東京研修センター (予定)

月/日	午前	午後
2月5日 (日)	来日	
6日 (月)	オリエンテーション 開講式	講義：プロジェクトマネジメント総論 ・ 研修のカリキュラム説明 ・ 研修目的の概説 ・ 日本発 PM 体系 P2M を学ぶ意義と P2M 概説
7日 (火)	講義：インフラストラクチャープロジェクトの構想 ・ 組成とファイナンス計画 (総合商社インフラ開発担当の講師による講義)	講義：プロジェクトマネジメント総論 ・ プロジェクトマネジメントの原理原則
8日 (水)	講義：プロジェクト目標マネジメント (1) ・ ライフサイクルマネジメント ・ スコープマネジメント ・ タイムマネジメント	見学：プロジェクトマネジメント ・ 都市インフラのプロジェクトサイト事例研究
9日 (木)	講義：プロジェクト目標マネジメント (2) ・ コストマネジメント ・ アーンドバリューマネジメント ・ 品質マネジメント	講義：プロジェクト目標マネジメント (3) ・ 報告・変更・課題管理 ・ 引き渡し管理
		講義：プロジェクト共通マネジメント (1) ・ プロジェクト組織とコミュニケーション論
10日 (金)	講義：プロジェクト共通マネジメント (2) ・ プロジェクトの資源管理 (調達管理を中心に) ・ リスクのマネジメント	ワークショップ：仮想インフラプロジェクトを題材としてのプロジェクトマネジメント演習 ・ プロジェクト概要記述書の作成 ・ プロジェクト役務範囲把握 (WBS 手法活用) ・ ステークホルダー識別と組織編成 ・ プロジェクト遂行計画作成
	ワークショップのオリエンテーション	
11&12日 (土日)	休日	
13日 (月)	ワークショップ：(続き) ・ プロジェクトスケジュール作成 ・ コスト積算 (方法論のみ) ・ プロジェクトのリスク分析 ・ 演習結果のグループ別プレゼンテーション	講義：プログラムマネジメント総論 (1)
14日 (火)	講義：プログラムマネジメント総論 (2)	講義：プログラムマネジメントを支えるマネジメント各論 ・ システムズ、ファイナンス、価値
15日 (水)	ケーススタディ：プログラムマネジメント インフラ輸出関連の事例研究	見学：プログラムマネジメント ・ インフラ分野のプログラムマネジメントに取り組む企業訪問
16日 (木)	ワークショップ：プログラムマネジメント演習 ・ ミッションプロファイリング、プログラムデザイン、アーキテクチャー開発 ・ グループ別演習成果発表	
17日 (金)	講義/討論：講義のまとめと振り返り	試験結果主任講師講評 質疑応答
	試験：理解度テスト	
18日 (土)	離日	

2月6日～16日午前：プロジェクトマネジメント

2月13日午後～16日：プログラムマネジメント

2月17日：まとめ

- 注：1) 上記の日程は講師、見学先の都合、その他諸般の事情によって変わることがあります。
- 2) 夕食後にグループ討論が行なわれることがあります。
- 3) 参加者は上記研修時間外にも WBT による自主学習を行なうことが可能です。
- 4) 土曜と日曜は原則として休日ですが、必要に応じて講義の予定が組まれることがあります。

**- The Training Program on Project & Program Management for Infrastructure Construction and Plant Engineering -  
[PPMI]**

Please fill in the following items by using a personal computer or similar equipment, or by handwriting in block letters in English. AOTS would duplicate and distribute it to lecturers and other participants as a reference material for the group discussions and presentations held during the program. The report form is available here in an MS-Word format (<http://www.aots.or.jp/jp/documents/ptr/11ppmi-e.doc>).

1. Your name	
2. Name of your company/ organization	
3. Outline of your company/organization  (Please give a brief description or outline of your company/organization.)	
4. Business outline, product lines/service, and size of business of your company	
5. Current/past/future projects related to Japanese companies <u>in the</u> <u>infrastructure field</u> (Please <u>refer Note 1</u> )  (Japanese company should be the owners or prime contractors of the projects)	[Past projects with Japanese companies]  [Current projects with Japanese companies]  [Future projects with Japanese companies]
6. Your position and name of your department  (preferably by attaching an organizational chart indicating your position)	
7. Your duties in detail	

<p>8.Experience of participating in any project at your workplace</p> <p>(Project contents, project period, and your role)</p>	
<p>9. On which project management standards are you performing your project management work?</p> <p>(Please check one of them )</p>	<p><input type="checkbox"/> My Japanese company or Japanese prime contractor's own company project management standard/manual/procedures.</p> <p><input type="checkbox"/> My company (national)'s own project management standard/manual/procedures.</p> <p><input type="checkbox"/> International project management standard such as PMBOK<sup>®</sup> Guide, IPMA ICB, PRINCE2 (UK), P2M<sup>®</sup> of Japan</p> <p><input type="checkbox"/> Consultant's private standard that my company has introduced.</p> <p><input type="checkbox"/> Not in particular; we perform project management based on on-the-job training or on my own</p>
<p>10. Project for which you are going to work after returning to your home country</p> <p>(Project contents, project period, and your role)</p>	
<p>11. Any management issues or trouble you had in managing a project you engaged in</p>	
<p>12. Your expectations for the program</p>	



of this during the year after the training? Please provide your rough estimate below.

About \_\_\_\_\_ people

Question 4:

If you have ticked “Yes, I am” in the above Question 2, please answer the following question. When you use what is learned from the AOTS training, what benefits do you expect? Tick the following statement that applies to you (multiple answers allowed).

- A reduced load to the environment and energy saving will be realized.
- Technology development and product design and development will be possible in the home country.
- Production capacity will expand. [About \_\_\_\_\_] %
- Productivity will increase. [About \_\_\_\_\_] %
- Product and service quality will improve. [About \_\_\_\_\_] %
- Costs will be reduced. [About \_\_\_\_\_] %
- Market will be extended.
  
- Others [\_\_\_\_\_]

Question 5:

Please provide the sales amounts of your company.

Actual sales for the last fiscal year [\_\_\_\_\_] USD \* 1 USD = 82 JPY

Estimated sales for this fiscal year [\_\_\_\_\_] USD \* 1 USD = 82 JPY

Question 6:

The AOTS training program costs about 7,600 USD per person to run the course. Do you think the AOTS training programs produce enough benefits to justify the expense (7,600 USD)? Tick the following statement that applies to you.

- Yes
- No

Question 7:

The following question is relevant to the above Question 6. Supposing that the expense (7,600 USD) is defined as “1”, describe the benefits obtained from the AOTS training program in numerical value. Roughly assess the benefits for the next five years after the training. Tick the following statement that applies to you. A very rough estimate is fine. Your response is highly appreciated.

- Below 1.0 => Provide a specific value [\_\_\_\_\_]
- 1.0 or above and below 1.5
- 1.5 or above and below 2.0
- 2.0 or above and below 2.5
- 2.5 or above and below 3.0
- 3.0 or above => Provide a specific value [\_\_\_\_\_]

End of document